

弥彦地区（第二期） (新潟県弥彦村)

ポイント 地区内のまちづくり資源を活かした
にぎわいの形成と、減少が見込まれる
定住人口の維持を図り、「にぎわいの
ある住みよい街」の実現を目指す。

地区概要 生活基盤整備による住環境の改善を図るとともに、温泉街・地域の歴史的資源を活用した街なみ整備を行い、地域の魅力向上を図る。

目 標

- ① 地域の観光資源である彌彦神社周辺の観光機能を強化し、温泉街と一体的な観光地を整備し、交流人口の増加を図る。
 - ② 安全で快適な住環境の形成とあわせた定住の受け皿を整備し、定住人口の減少を抑制する。

指 標

住環境整備、街なみ整備による魅力向上による、人口定着・交流人口の増加、及び道路整備を行うことから、交通事故発生件数を指標とした。

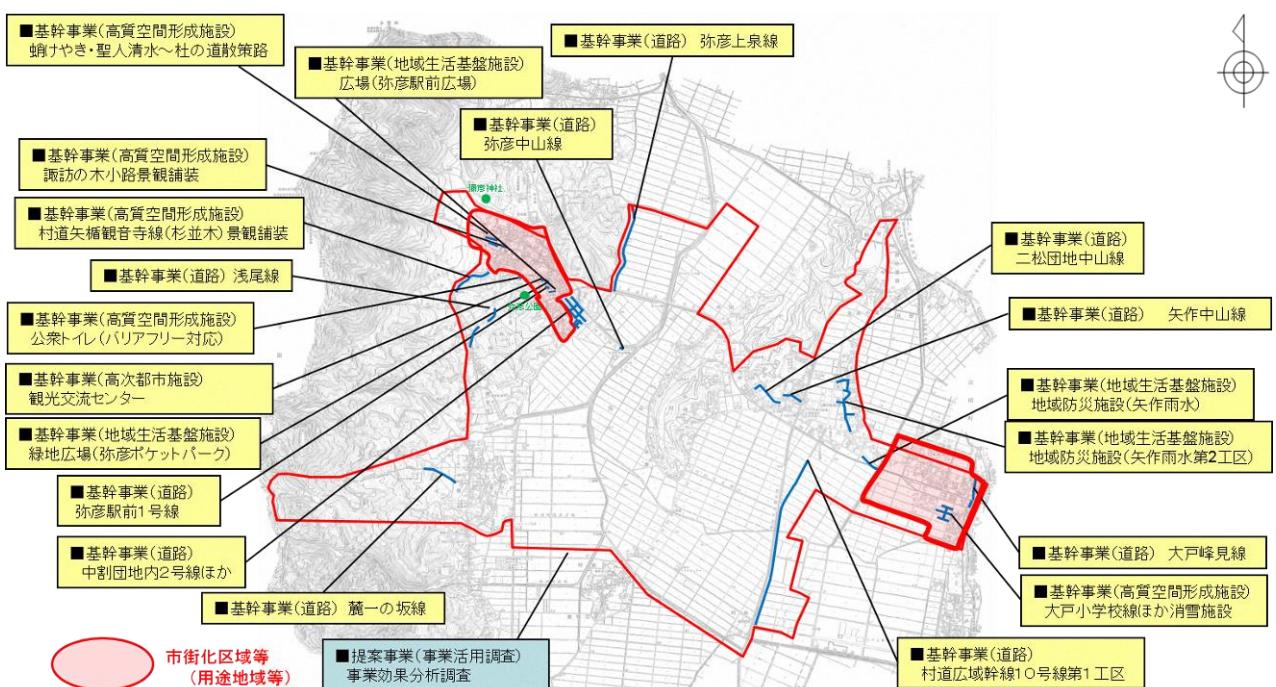
定住人口	8,660	(H24)	→	8,219	(H29)
交流人口	266	(H23)	→	252	(H29)
交通事故発生件数	159	(H23)	→	175	(H29)

事業內容

基幹事業（916百万円） → 道路（11路線 L=5,510m、W=4m～10.5m）、地域生活基盤施設（緑地・広場 A=2,480m²、地域防災施設 L=884m）、高質空間形成施設（大戸小学校線ほか消雪施設 L=490m、ほか4事業）、高次都市施設（観光交流センターA=87.8m²）

提案事業

→事業活用調査（事業効果分析調査）



凡 例

地区の現況と課題

弥彦村は、県庁所在地である新潟市、長岡市、燕市に隣接し、佐渡米山国定公園の豊かな自然に囲まれ、また、温泉、神社等観光資源にも恵まれており、年間 250 万人を超える観光客が訪れている。

その恵まれた環境が評価され人口は微増傾向にあったが、少子高齢化の波には逆らえず人口はここ数年減少に転じ、定住人口を守ることが越緊の課題となっている。また、観光産業が村の主要な産業の 1 つであるため、地震による風評被害を払拭し観光産業の活性化を図ることが強く求められている。

計画策定プロセス

都市再生整備計画

本地区においては、平成 19~23 年度において弥彦地区都市再生整備計画（第一期計画）で、人口増加に向けた住宅地整備や彌彦神社周辺の集景及び回遊性向上に向けた公共施設の整備等に取り組み、目標としていた定住人口や交流人口の増加はみられたものの、近年は減少傾向にあるため、引き続き良好かつ魅力的な市街地環境の形成が求められる。

道路事業

交通事故発生件数の減少を指標に、老朽化が進んでいる側溝や幅員の狭い村道の拡幅等の道路整備を行う。

⇒弥彦上泉線は、主要幹線が込み合うと抜け道として利用する車や、農家の車も通るが幅員が狭くすれ違い困難だった。

改良工事の結果、幅員が広くなりすれ違いも容易になった。

地域基盤施設・高次都市施設

景観の向上や交流センターの建設など観光機能強化に取り組み、温泉街と一体的な観光地を整備することにより、交流人口の増加を図る。

⇒訪れた人に弥彦村の観光をより知ってもらうため、平成 25 年度に観光交流センターを建築し、休憩場所としても開放している。歩行者の安全確保や緑地体としてポケットパークを整備し、景観に配慮した街づくりを進める。



▲彌彦神社



▲秋の風物詩 弥彦公園のもみじ谷



▲整備前（道路事業：村道弥彦上泉線）



▲整備後（道路事業：村道弥彦上泉線）



▲地域基盤施設にて整備したポケットパーク



▲高次都市施設にて整備した観光交流センター



▲整備前（地域基盤施設：緑地、広場）



▲整備後（地域基盤施設：緑地、広場）